

令和5年度第2回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会 結果概要

◆日時 令和5年9月5日（火）19:00～20:05

◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 4階 大会議室

◆出席委員

筒井 琢磨委員、寺 和奈委員、亀谷 崇委員、田尻 優子委員、池山 敦委員、
原 幸久委員、谷 朋恵委員、河井 英利委員、藤原 寛仁委員、高橋 勝利委員、
堀田 稔朗委員、山本 久美委員、前田 敦子委員

◆欠席委員

田中 真理子委員、世古 晃文委員、竹内 厚史委員、富内 伊佐雄委員

◆出席職員

企画調整課長、同課副参事、同課係長、同課主査、同課職員、職員課長、広報広聴課長、市民交流課副参事、健康課副参事、健康福祉部参事兼福祉総合支援センター長、子育て応援課長、こども発達支援室長、商工労政課長、農林水産課長、観光誘客課長、観光振興課長、都市整備部次長兼監理課長、交通政策課長、教育委員会事務局参事兼社会教育課長、教育研究所長、スポーツ課長

◆記者席

1名

◆議事概要

※以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておられませんので、ご了承ください。

1 第2次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの暫定総括について

(1) 資料1に基づき、第2次共生ビジョンに係る現時点での総括評価結果、今後の方向性を説明。

① 現時点での総括評価結果について

- ・各取組事項について、連携市町と協議のうえ、「継続」「修正して継続」「廃止」の3項目で整理し、32の取組事項すべてが「継続」または「修正して継続」となった。
- ・各取組事項における成果指標について、54の成果指標のうち約60%が「達成の見込み」、約18%が「達成は見込めないが一定の進捗が得られた」、約22%が「達成が見込めない状況」となった。
- ・各取組事項の総括評価については、32の取組事項のうち約47%が「計画どおり進んでいる」、約37%が「計画どおりは進んでいないが、一定の進捗が得られた」、約15%が「計画どおり進んでいない」となった。

② 今後の方向性について

- ・第2次共生ビジョンの総括を踏まえ、第3次共生ビジョンを策定し、令和6年度以降も定住自立圏構想を推進していく。

(2) 委員意見・質問

- ・「修正して継続」となっている取組事業について説明を。
→事項2で説明する予定。

2 第3次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン案について

(1) 資料2に基づき第3次共生ビジョン案について説明

①各取組事項について

- ・第2次共生ビジョンからの継続である32の取組に加え、新規取組事項として「自転車を活用したまちづくり」と「インクルーシブスポーツの普及・啓発」を追加。
- ・第2次共生ビジョンの総括評価において「修正して継続」とした取り組み事項「宮川流域の環境保全・情報発信」については、「宮川流域ルネッサンス協議会」の協議会体制の変更に伴い、協定の変更を伴う取組事項の修正を予定しており、現在連携市町間での協議を行っている。

(2) 委員意見・質問

- ・新規取組事項「自転車を活用したまちづくり」において、「レンタサイクル等の貸出数」が成果指標となっているが、住民はほとんど使用していないのが現状。本取組の期待される効果として、「観光振興」や「住民の健康の増進」等が挙げられているが、1つに的を絞った目標指標を設定した方が良いのではないかと。
 - 本取組事項については、現在策定を進めている「伊勢志摩地域自転車等活用推進計画」に沿って設定していく形となるが、本計画自体は幅広い効果を狙ったものとなっている。いただいた意見を踏まえ、今後目標指標の設定について検討していく。
- ・自転車専用レーンの設置等は検討しているか。
 - 自転車専用レーンについては、「自転車ネットワーク計画」の中で、主要な道路において導入を検討しており、中長期的に整備を行っていく予定である。
- ・休日夜間救急診療について、令和6年度の目標値が令和4年度の実績値の約2倍になっているが、その根拠は。
 - コロナの影響で受診控えがあったため令和4年度の実績が低くなっているが、平成30年時点では1万人程度の受診があった。現在はコロナの影響も落ち着いてきているため、コロナ以前程度の受診者数になるのではないかと想定している。
- ・事業費の考え方について説明を
 - 事業費については伊勢市及び連携市町の予定している支出額の積み上げとなっている。中心市に対して連携市町から負担金を拠出し実施される事業もあれば、各市町で事業費を計上し実施される事業もある。特別交付税については、伊勢市で1億円程度が上限となっている。
- ・目標値・成果指標について見直しがされている事業があるが、その理由についてはいかがか。
 - 各指標・目標値が各取組の成果を表すものとして適切なものなのか連携市町と協議のうえ、より適切なものとなるよう調整をし、設定したものである。
- ・第2次共生ビジョンではコロナの影響で目標に変更が生じていたが、第3次共生ビジョンの目標はコロナの影響がなくなったものとして設定をしたのか、コロナの影響が続いているものとして設定をしたのか。
 - コロナの影響がなくなっているとして目標を設定しているものもあれば、コロナの影響で仕組みや価値観が変化したことから、段階を踏まなければ元には戻らないと判断して、コロナの影響を加味して目標を設定しているものもある。

- ・企業立地の推進について新たな視点が見えてこないが、何か考えているか。
 - 関係市町において企業誘致できる土地が限られてきている状況の中で、コロナ禍で変化した働き方（テレワークやワーケーション等）への対応により、関係人口を含めて増やしていければと考えている。
- ・「伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興」における成果指標「伊勢志摩国立公園の訪日外国人利用者数」について、目標値は「ステップアッププログラム」に沿ったものか。
 - 「ステップアッププログラム」の数値に基づいて設定している。
- ・「図書館サービスの更なる充実に向けた仕組みの構築」について、圏域での連携によって利用者は増加しているか。
 - コロナの影響で一時的に大幅に減少したが、その影響を除けば圏域内での本の貸し借りは増加している。
- ・「図書館サービスの更なる充実に向けた仕組みの構築」について成果指標が調整中であるがどのような状況か。
 - 伊勢市立図書館における連携市町の住民への貸し出し数は把握できているが、連携市町の図書館における他市町の住民への貸し出し数は把握できていないことから、数値を把握できるかも含めて現在調整中である。
- ・インクルーシブスポーツについては、CLL活動において学生の学びの場として機会を提供してもらっていることに感謝している。
 - 令和4年度から重点事業として取り組んでいる。まず重要なのは周知と各団体等との連携強化だと考えており、その中で学生の皆様と連携して取組をさせていただいている。これは次世代育成としても非常に重要であり、これが積み重なっていくことで住みよいまちづくりにつながっていくと考えているため、今後とも協力していきたい。
- ・定住自立圏の目標は人口を増やしていくことであるものの、第2次共生ビジョンでは目標は達成できている取組が多い中で人口は減少している。各取組と人口増の関係性が見えてこない。
 - 定住自立圏構想は、生活圏を一にしている地域が一体となり、圏域の生活機能等の確保に取り組むことで人口の維持・増加を目指す制度である。暮らしやすい生活圏を形成するため、単独で実施することが難しい取組や広域で実施することにより大きく効果が発揮できる取組を実施している。その中でも連携市町が合意し、協定締結に至ったものをビジョンに記載している。また、ビジョンに記載されている取組以外にも、連携した取組や各市町が独自に実施している事業もある。各取組と人口増の関係性がわかりづらいという点については、今後の説明の方法について検討していく。
- ・「インクルーシブスポーツの普及・啓発」の実施において、設備や装備、スタッフなどの準備は整っているのか。
 - 設備については、既にバリアフリーに対応しているなど、設備が整っている体育館等を使用している。専門的な人材については、パラスポーツ協会の方々と連携しており、様々な方が参加しやすい体制づくりに努めている。
- ・「宮川流域の環境保全・情報発信」については、「宮川流域ルネッサンス協議会」に圏域外の自治体も含まれているが、次回会議までに調整して成果指標を設定するというのでよいか。
 - 次回会議に間に合うように調整して進めていく。